夏期大学講座「新しい気象学」(第3回) 経過報告

第3回の夏期大学講座は7月21～26日に気象庁講堂で開催された．今回は学会からの開催通知が遅れたために，学会を通じての出席者は大へん少なかつた．しかし共催者側の尽力によって出席者は55名に達し，充実した講座をもつことができた．昨年同様，出席者からアンケートを集めることができたので，来年度の参考のために，集計の結果を要約してみよう．

1. もっとも興味をもった講義題目

倉嶋：季節風 (20)，内田：雲と雨の物理学 (20)．

竹永：天気予報 (13)，久保木：長期予報 (11)．

神山：気象と人間 (10)，土屋：気候変化 (10)．

カッコ内はアンケートを出された42人中の回答数．

2. 今後要望される講議題目

気象学の基礎講義 (6)，天気予報—詳しく実例を使って— (3)，気象入門—渡辺次雄氏に—，高層気象—天気図を使って— (3)，メソ気象 (4)，生活の気象学，航空気象—乱流，雷雨，視程障害現象など—(2)，都市気候，熱帯気象—熱帯積雲対流と循環—，気象学史，地形と気象—東南アジアの気候と日本への影響—，季節風—今年の続き—，流体力学と気象上の実際例，梅雨，雪，雷，雲，ひょうの成因等について (8)，前線・集中豪雨，海洋気象 (8)，南極の気候—昭和基地の有効性—，気象測器について (3)，気象庁の組織について・気象観測法・気象通報 (3)，気象現象に関連する地球・宇宙の物理的事柄，太陽活動の地球大気への影響，大気大循環論，放射論，循環と東西指数，気象衛星とラジオゾンデ，地震・火山・津波，気象の神秘—ブロッケン等—．

3. 夏期講座に対しての要望

冷房を望む (15)．テキストの先渡しを望む (8)．講義の時間増，1日1課目，より長時間に，または内容をしぼってくわしく (12)．講義内容がむづかしすぎる(研究論文発表的 (6)．参考資料をリストアップしてほしい (3)．時間を昼にできないか (3)．参加者同士又は講師と交流する企画をもうけてほしい (3)．受講者を同一レベルのグループにわけ効果的な講義をしてほしい (2)，多くの人に興味のない，あるいは聞こえない質問に時間をとられすぎる (2)．講師の口調をはっきりと．マイクの状態がわるい (2)．気象庁の見学はもつと詳しく，細かく見せてほしい (2)．最終日に全体の質問時間を設けてほしい．序論に時間をとられ，本論がはしょられてしまう．現業の話を多く入れてほしい．スライドの説明はよくわかる．年2回位の開催を望む．研究所の見学を希望する．開催の通知を早めに，窓口を広くして大勢の人に聞かせたい．

4. その他

アンケートの要望に冷房を希望する者が多かったが，もし来年も気象庁で開催されるならば，冷房が完備されるのでこの点は改善されよう．なお今回は学会からの通知がおくれたため，参加者が前年にくらべ半減してしまったが，これは来年の開催にあたって，もっとも注意すべき点である．

講義の全項目について，その内容に通暁することは専門家といえども甚だ困難である．したがって短時間に各分野の進歩の要点が聞かれることは，何としても有難いことで，アンケートの回答にもあるように，これだけの出席者だけで聞くことは，大へんもったいない気がした．無料で公開することは，経理上できないが，何らかの形で，若い研究者・技術者のみならず，年配者の再教育のために，この講座は一そう利用されるべきものであろう．来年はこの講座も4年めをむかえるので，学会の定期的な事業として，さらに綿密な計画が要望される．

なお事務局には講義テキストの残部があるので，必要の向きはお申込み下さい．定価 1部400円 (送料別)．

(根本・石井)